

■鹿野武左衛門 咄家。仕方噺を得意として本職となり、“江戸落語の祖”となるも、筆禍で遠島、赦免即憤死。

しかのぶざえもん
慶安御触書・1649＝

難波村で、塗師の家に生まれる。

徳川家光没・1651＝ 2歳：

明暦の大火・1657＝ 8歳：
人身売買禁止1658＝ 9歳：

塗師の修業は面倒と家出し、江戸に流れ着くも、定職無く、

酒井忠清大老1666＝17歳：
入鉄砲出女令1667＝18歳：

結局、塗師を業としながら、堺町・長谷川町などに住み、

芝居がかりの座敷仕方噺を得意として諸家に招かれ、中橋広小路で仕形咄を興行して本職となる。

三つの反乱・1876＝27歳：

徳川綱吉將軍1680＝31歳：
天下一禁止・1681＝32歳：紀州藩家老三浦為隆お抱えの儒医である石橋生庵の日記「家乗」に、演題や同席した人びとの名が遺され、この年初めて三浦為隆の座敷に招かれ、*「福届徳庵門札」「黄蝶ノ沙汰」「島の名達」「蔭間ノ出ソコナヒ」「大水の舟歌」「奴子ノ喧嘩」「太鼓ノ稽古」「福蔵木遣」「ワカシサマシ」「老若ノ讃」「合碁打」「念入弥介」などを披露、これが落語の演題としては最古の記録とされている。

八百屋お七・1683＝34歳：
堀田正俊暗殺1684＝35歳：
出世景清初演1685＝36歳：
・・・・・・1686＝37歳：*「鹿の巻筆」などの咄本を刊行、

日本永代蔵・1688＝39歳：「枝珊瑚珠」は武左衛門の参加した咄の会の成果である。
再び三浦為隆の座敷に招かれ、_「女養父入織悔」「家暮吉原通」「玉簾」「籠太鼓」「三面争」「物ニハ氣ヲツケヨ」「桂馬見立」「七夕狂歌」「公家見物」「二王力紙」「五百八十七曲」「人篇掛物」「町男喧嘩」「妻争」「字余木遣」「仮名読損」「謎解」「大水舟歌」「ハセ釣」「五音誤」「酒沸し醒まし」「福蔵木遣」「浪人頓作」「夢中戯」「湯屋実盛」「殺生石」があげられている。

奥の細道・・1693＝44歳：*この年、江戸市中にコレラが流行、浪人筑紫園(団)右衛門が「鹿の巻筆」から示唆を得たとして予防策を小冊子にあらわしたことが事件となったことから、吟味を受け入獄、以後、江戸落語は衰微、
芭蕉+師宣没 1694＝45歳：伊豆大島に流され、「鹿の巻筆」は没収の上焼却という伝承も生まれる。

生類憐令頂点1695＝46歳：_出獄し、
・・・・・・1697＝48歳：帰郷して京坂に上るも表向きの活動はできず、見かねた書林宗貞の肝煎で露五郎兵衛との優劣を競わせる企画の「懸合咄」が刊行されたと考えられるが、その中でも既に死去したとされている。
・・・・・・1699＝50歳：この年に、_江戸で没したとされるが、

この間も、密かに仕方咄をし続けて、

冥途の飛脚・1711＝62歳：_この年に没したという説も残る。